

- 82, 35-56.
- Pellegrini, M.O.O. *et al.* 2018 Total evidence phylogeny of Pontederiaceae (Commelinales) sheds light on the necessity of its recircumscription and synopsis of *Pontederia* L. *PhytoKeys* 108, 25-83.
- 佐竹義輔 1982, ミズアオイ科. In 佐竹義輔ら(編)日本の野生植物I草本, p. 59. 平凡社, 東京.
- 島田直明 2014, 東日本大震災による津波が岩手県の海岸植生に与えた影響およびその後の植生再生と保全状況について. 植生情報 18, 44-54.
- 静岡新聞(夕刊)2003, 「静岡麻機レンコン」. 2003年10月17日.
- 住吉正ら 2011, 特集3. 難防除雑草の埋土種子調査 水稲作における難防除雑草の埋土種子調査法. 雑草研究 56, 43-52.
- Taberlet, P. *et al.* 1991. Universal primers for amplification of three non-coding regions of chloroplast DNA. *Plant Mol. Biol.* 17, 1105-1109.
- 高木素紀ら 2016, 茨城県のハス田内部および周縁部における雑草や野良生えハス *Nelumbo nucifera* へのレンコンネモグリセンチュウ *Hirschmanniella dibersa* の寄生と増殖の可能性について. 関東東山病害虫研究会報 63: 98-101.
- 田中法生 2015, ミズアオイ科. In 大橋広好ら(編)改訂新版日本の野生植物1 ソテツ科〜カヤツリグサ科. 平凡社, 東京. 270-271.
- Wang, G.-X. *et al.* 1995. The Enantiostyly and the pollination biology of *Monochoria korsakowii* (Pontederiaceae). *Acta Phytotax. Geobot.* 46, 55-65.
- 汪光熙ら 1996a, ミズアオイとコナギにおけるアイソザイムの変異. 雑草研究 41, 255-263.
- 汪光熙ら 1996b, ミズアオイとコナギの開花の日長反応特性. 雑草研究 41, 241-246.
- 汪光熙ら 2010, ミズアオイ属水生雑草の形態における変異. 雑草研究 55, 245-253.

くさぐさ  
田畑の草種

継子の尻拭い  
(ママコノシリヌグイ)

(公財)日本植物調節剤研究協会  
兵庫試験地 須藤 健一

タデ科イヌタデ属のつる性の一年草。全国の休耕田、河川敷、原野などの湿った所に生える。茎葉はよく分枝ししばしば藪を形成する。丈は1mから2m。葉は三角形から長三角形。5月から10月に枝先に米粒大のピンク色の花が10個ほど集まって咲く。茎の稜、葉柄、葉の裏面脈上などあらゆるところに逆刺がある。この逆刺により他の植物に絡みつく。

「ヘクソカズラ」や「イヌノフグリ」、「ハキダメギク」などと並んで植物名の悪名の代表格とされる。中でも「ママコノシリヌグイ」は、名付け親の牧野富太郎によれば「和名は逆向きの刺のある茎で継母が憎い継子の尻を拭く草という意味」というほどに、凄まじい差別的な名前ではある。命名にあたって、牧野はその名をすでに各地で呼ばれていた名前から採ったのではないかといわれるが、では、実際に、昔はこの草で継子の尻を拭くといういじめが行われていたのであろうか。

継子いじめの歴史は古い。神話時代や子どもが共同体で養育されていた時代にはなかったことであるが、妻が夫のもとへ移って一緒に暮らし始めたころから起こってきた。日本での「継子いじめ譚」の典型は「落窪物語」であるが、この物語は、平安中期の貴族社会を写實的に

記述した物語とされている。そうであれば、平安時代の中頃には「シンデレラ」と同じ継子いじめが行われていたとも考えられる。

これらの「継子いじめ譚」の対象はほとんどが女の子であり、悲惨な死という結末もあるが、継子が人や動物に助けられ後に成功を掴み取るという結末が多い。実際には、様々な形で継子いじめが行われていたのであろうが、シンデレラにせよ落窪の姫にせよ、もう、継母が尻拭いしなければならぬような歳ではなかった。尻拭いしなければならぬとすればまだ赤子である継子ではないだろうかと思えるのである。

そうであれば、刺だらけのこの草で赤子の尻を拭くとはどうなるのか。憎い継子であってもその仕打ちはあまりにもむごすぎることなのだ、と継母の継子への仕打ちを戒めようとして名付けたのではないだろうか、という考えに至るのである。

多くの「継子いじめ譚」が継子いじめを戒めようとして昔話として語られてきたように、刺だらけのこの草で赤ん坊の尻を拭くような「継子いじめ」を戒める意味で「継子の尻拭い」と呼ばれてきたのではなかろうか。

因みに韓国では「嫁の尻拭き草」と呼ばれるそうである。